

# 2016年度 CSR報告書



**TONEGAWA**

株式会社利根川産業

本社 〒121-0836 東京都足立区入谷8-3-8

電話03-3855-0732 FAX03-3855-0799

# 「環境方針」

## 基本理念

株式会社 利根川産業は、廃棄物の収集運搬並びに中間処分、資源リサイクル事業活動を通じて、廃棄物の適正処理並びにリサイクル社会の形成に貢献するとともに、地域環境の調和に努めます。

## 行動指針

- 1.事業活動に伴って発生する飛散、悪臭、騒音、振動及び排水の水質等について、環境への負荷低減と汚染の予防に努めます。
- 2.当社の許可品目においては、関係機関及び自社の技術開発を通じて、サーマルリサイクル、マテリアルリサイクルの推進に努めます。
- 3.環境関連の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
- 4.環境マネジメントシステムに関わる運営体制を整備し、環境目的・目標を定め、定期的に点検・見直しを行い、継続的改善に努めます。
- 5.全社員への環境教育・訓練を実施し、環境意識の啓蒙と技術・技能の向上に努めます。

平成23年8月15日 株式会社 利根川産業 代表取締役 利根川満彦

# 「全てはお客様と環境のために」

## 「ご挨拶」

「2016年度 環境報告書」を発行させて頂くにあたり、ご挨拶を申し上げます。

弊社は、事業系一般廃棄物及び産業廃棄物の処理において、中小企業でありながらも経済的・技術的に取り得る最大限の努力をもって、再資源化・ゼロエミッション化・省エネ化を推進しております。

また、リサイクル品は不透明になりがちな輸出を大幅に減らし、国内向けをメインにシフト致しました。

廃棄物の安全・確実な処理こそがお客様と環境のためになることを信条としてこれからも邁進して参ります。

## 「ISO14001による環境負荷の低減」

弊社では、2005年12月にISO14001を導入して以来、環境への配慮を掲げ、使用する全車両へのデジタルタコグラフの装着による徹底した省エネ運転の管理を実施するとともに、軽油その他の燃料、電気、水道の使用量を管理しております。

また、パート・アルバイトを含む全社員に対しても、省エネ、法令等の社員教育を徹底して行い、環境負荷の低減に向けた努力を行っています。

## 「RPF化(固形燃料化)の推進」

弊社 入谷工場では、廃プラスチック類を始めとする産業廃棄物から「RPF(固形燃料)」を製造しています。

RPFは、石油や石炭の代替燃料として製紙工場等のボイラー燃料として利用され、天然資源の枯渇防止だけでなく、それらに比べてCO<sub>2</sub>の排出量を3割程度削減可能な有効資源活用として注目されているものです。

弊社では、事業系一般廃棄物を扱う都内の許可業者としては最初に導入し、実績を積み重ねております。

廃棄物を出さない廃棄物処理工場を継続しています。

## 「総合的なリサイクル工場」

2017年4月より、本社の移転に伴って本社工場を建設し、様々な配置変更を行ってリサイクルの効率化をしました。

- ①入谷第2・第3工場を入谷工場に移転させ、空缶・発泡スチロールのリサイクルを1つの工場に集約しました。
- ②隣の本社工場ではPETボトルリサイクルの高度化リサイクルの為の新たな設備を導入しました。

工場見学は随時行っておりますので、ご自分の廃棄物がリサイクルされる状況をお確かめ下さい。

# 環境パフォーマンス報告

## 「燃料(回収業務・営業用車両)使用量」

2015年度 総走行距離 1,150,624km

2015年度 燃料使用量 266,638kl

2015年度 燃費 4.31km/l

2016年度 総走行距離 1,140,217km

2016年度 燃料使用量 263,074kl

2016年度 燃費 4.33km/l

※東京都 自動車環境管理実績報告書のとおり

## 「電気・水道使用量」

2015年度 総電気使用量 1,021,214kW

2015年度 総水道使用量 13,996m<sup>3</sup>

延床面積当りの総電気使用量 356.68kW/m<sup>2</sup>

延床面積当りの総水道使用量 4.89m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup>

2016年度 総電気使用量 1,022,346kW

2016年度 総水道使用量 13,863m<sup>3</sup>

延床面積当りの総電気使用量 357.08kW/m<sup>2</sup>

延床面積当りの総水道使用量 4.84m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup>

## 「Co2排出量」

2015年 Co2総排出量 1,061.45t

延床面積当りのCo2排出量 0.371t/m<sup>2</sup>

2016年 Co2総排出量 1,061.81t

延床面積当りのCo2排出量 0.371t/m<sup>2</sup>

2016年度延床面積 2863.07m<sup>2</sup>

## 「廃棄物処理費用の適正化のお願い」

最近、異常に安価な廃棄物処理費用を提示したり、求めたりする「廃棄物コンサルタント」や「仲介業者」の話をよく聞きます。

不適正な低価格の廃棄物処理費用は、不法投棄や数々の水増し報告・請求といった直接的なデメリットに留まらず、それらが引き金となり低賃金化や労働条件の悪化等による廃棄物業界への魅力の減少により従業員が集まらず、事業を縮小した例も発生しています。

廃棄物処理費用の適正化をご理解下さい。

# LCA報告書

弊社の携わる廃棄物業界においては、廃掃法等の制限により車両の運行等が決して効率的とはいえない状況となっております。また、取り扱う廃棄物においても一般廃棄物・産業廃棄物を含めて効率的な廃棄やリサイクルが難しい状況となっております。

しかし、弊社では可能な限りリサイクルを推進し、弊社全体のCo2総排出量からリサイクルを行った係数を指針として、今後とも同じCo2の発生量であるならば、どれだけリサイクル活動が出来たのかを皆様にご報告をさせていただきます。

2016年度 (株)利根川産業Co2総排出量 1,070.66t

RPF取扱・製造量	1,814.30t
廃プラリサイクル量	19.05t
PETボトル取扱量	2,185.33t
段ボール取扱量	15,008.36t
その他古紙取扱量	91.72t
缶・ビン取扱量	352.50t
発泡取扱量	506.36t
総合計	19,977.62t

2015年度 (株)利根川産業Co2総排出量 1,061.81t

RPF取扱・製造量	1,871.47t
廃プラリサイクル量	40.4t
PETボトル取扱量	1,950.60t
段ボール取扱量	15,215.84t
その他古紙取扱量	109.14t
缶・ビン取扱量	246.15t
発泡取扱量	496.26t
総合計	19,929.86t

Co2総排出量／リサイクル品取扱量＝弊社のLCA係数

2016年度  $1,070.66 \div 19,977.62 = 0.0536$

2015年度  $1,061.49 \div 19,929.86 = 0.0533$

前年度比 3ポイントのマイナス。段ボール・古紙類の取扱いが減少したためと思われます。

# 様々な活動にチャレンジ

## 「交通安全ボランティア活動」

弊社では、警視庁西新井(足立区)警察署交通課と連携して環七江北橋陸橋交差点や国道4号線足立区役所南側交差点等で、交通安全ボランティアを行っています。

2016年度は合計8回参加し、歩行者や自転車と車両の交通安全に貢献しています。

また、2015年12月には西新井警察署交通課による交通安全講習を全社員を対象に行い、運転手の安全運転及び運転マナーの向上に努めています。

その活動が評価され、地区幹事となりました。

## 「GRS(Global Recycle Standard)取得へ」

日本での認知度は低いのですが、PETボトルの国際的リサイクルシステム認証を取得しています。

これはPETボトルの入荷から加工、搬出に至るまでの流れを労働安全衛生とトレーサビリティ及び環境の国際基準によって審査し、その正当性と品質を証明するものです。

ナイキやアディダス等の国際的メーカーは、PETボトル再生繊維を使用する場合、このGRS取得製品以外は購入しないことは隠れた事実なのです。

## 「その他の環境活動」

弊社では、ISO14001の他にも「グリーン購入」(東京都指針に準じる)、「カーボンオフセット商品の購入」にも積極的に取り組んでいます。

消耗品やサービス等をこれらの環境負荷に配慮したものにすることにより、地道な環境負荷低減を目指しています。

また、弊社は中小企業でありながらも「地球温暖化対策報告制度」に取り組み、率先して環境負荷低減に努力しています。



# PETボトルリサイクルの新たな挑戦

弊社では、従来の中国向けPETボトルリサイクルを廃止して、全てのPETボトルを国内で処理・加工し、「手に取れるPETボトルリサイクル」を開始しました。(専用機器による高純度化処理ライン使用)

弊社で完全フレーク化



提携国内工場でペレット化



東洋紡(株)で繊維化



住商モンブラン(株)で白衣に



繊維化は東洋紡(株)で行われ、住商モンブラン(株)ブランドで販売中です。  
この白衣はPET再生樹脂を85%使用し「グリーン購入法対象商品」に指定されています。  
更に、廃棄される白衣は弊社にて「RPF化」して再生燃料としてサーマルリサイクルすることが可能であり、環境負荷の低減に貢献しています。